

電池リサイクル体制整備

POSCO、欧韓に拠点

韓国のPOSCOグループは電池リサイクル体制を韓国、欧州で整える。上流はポーランドの拠点、PLSCが完成。スクラップを破碎、リチウム、ニッケルなどのスクラップ

を回収、韓国に送る。下流の韓国・光陽ではPOSCO・HY・クリン・メタルの拠点が完成。リチウム、ニッケル、コバルトなど素材を回収する。欧米で新たな拠点の整備も

視野に、リサイクル生産体制を稼働、POSCOケミカルが電池材に使う素材を安定確保する。PLSCは電池スクラップを年間1万ト処理する能力を備える。

スクラップを破碎したブラックマスを年間8000ト生産する。ブラックマスにはリチウム、ニッケルなどが含まれる。1月に稼働した工場は3月には通常操業に立ち上げる。

POSCO・HY・

クリン・メタルは電池材を手掛ける中国の浙江華友コバルトとの合弁会社。12月に完成し、2月に認可を得て5月に生産に入る。ブラックマスを年間1万2000ト処理する能力を備え、ブラックマスを使ったリチウム、ニッケル、コバルトなどを生産する。年間ニッケル2500ト、コバルト800ト、炭酸リチウム2500トなど7品目を生産す

る。

二次電池メーカーなどの需要家はルートの決まった電池リサイクル体制を求めているという。POSCOグループとして、北米、欧州連合(EU)で拠点を構え、電池材のリサイクル体制を整備する検討を進めている。2030年までにニッケルで3万ト、炭酸リチウムで3万ト、コバル

トで5000トのリサイクル生産体制を目指す。

次世代のリサイクル技術の開発にも取り組む。現行の生産プロセスにPOSCOの製錬技術を組み合わせ、次世代乾式製錬技術を開発している。高効率で投資額を抑えられ、回収率の高いプロセスを開発する。